

TRAINEE REPORT



The 17th
Duskin Leadership
Training Program in Japan
2015~2016

第
17
期

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業

研修生報告書

期間2015年9月～2016年6月



ダスキン・アジア太平洋 障害者リーダー育成事業とは

国連・アジア太平洋社会経済委員会が決議した「アジア太平洋障害者の10年」の中間点にあたる1999年、財団ではその要請に応じて、アジア・太平洋地域の障がいのある若者を日本に招へいし、約10ヵ月間、日本の障がい者福祉や日本の文化を学んでいただき、帰国後は母国の障がい者リーダーとして活躍していただくという人材育成事業です。

2015年までに、27の国や地域から121名の研修生がこのプログラムで研修し、母国で障がい者リーダーとして活躍しています。

この冊子はアジア第17期生の研修報告書をまとめさせていただいたものです。日本語・日本手話研修に始まり、各人の研修目的に合った機関や団体での充実した個別研修、そして一生の思い出となるボランティア家庭でのお正月ホームステイやスキー研修と、6名のアジア研修生が、何を学び、何を感じたかが綴られています。ぜひご一読ください。

研修を担当された公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会、お世話になった機関や団体の皆様、ホームステイを引き受けてくださった各地のボランティアの皆様、愛の輪会員の皆様のお力添えに改めて感謝申し上げますとともに、今後もダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に格別のご理解とお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業 実行委員会 委員(敬称略)

寺島 彰	浦和大学 総合福祉学部長 教授
山口 和彦	NPO法人 居宅移動支援事務所 TOMO 事務局長
河村 宏	NPO法人 支援技術開発機構 副理事長
高嶺 豊	NPO法人 エンパワメント沖縄 理事長
小倉 國夫	アジア障害者支援プロジェクト 事務局長
嶋本 恭規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事・WFDアジア地域事務局長
稲 淳子	精神保健福祉士/社会福祉士
野村 美佐子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与
村瀬 道雄	横浜訓盲学院 教頭

(任期:平成27年4月1日～平成29年3月31日)

C O N T E N T S

2 ダスキン・アジア太平洋 障害者リーダー育成事業とは

2 全体研修日程

2 ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業 実行委員会 委員(敬称略)

3 ギャン・バハドゥル・ビタコチ

7 ハニタ・マイポン

11 ジェイビス・ニュブタイ・マナイカ

14 アリユナ・バッサンダッグ

17 セレイポン・チム

20 アディール・アハマッド

全体研修日程

2015年	来日
9月5日(土)・9月6日(日)	開講式
9月7日(月)	オリエンテーション
9月8日(火)～9月15日(火)	日本語・手話研修
9月9日(水)～12月11日(金)	日本語能力試験
12月6日(日)	日本語・手話成果発表会
12月8日(木)	集団研修①
12月14日(月)～12月25日(金)	ホームステイ
12月28日(月)～2016年1月4日(月)	ホームステイ
2016年	
1月12日(火)～5月13日(金)	個別研修
1月22日(金)～1月25日(月)	スキー研修
1月5日(火)～8日(金)、 1月26日(火)～29日(金)	集団研修②
1月29日(金)	研修生交流会
4月25日(月)	ダスキン新人研修会
4月26日(火)・27日(水)	集団研修③
5月16日(月)～6月14日(火)	集団研修④
6月4日(土)	成果発表会
6月16日(木)	修了式
6月17日(金)・18日(土)	帰国

Training Schedule



ろう者が いきいきと暮らせる ネパールのために

Gyan Bahadur BHITAKOTI

ギャン・バハドゥル・ビタコチ

ネパール(ボカラ)出身 24歳 聴覚障がい(ろう)

研修希望内容

- ① ろう者への差別/偏見をなくす
- ② 高齢ろう者に対する居場所づくり
- ③ ろう者に対する社会教育

1. 日本での経験

来日して最初の3ヵ月間、日本語と日本手話を学びました。日本語は、平仮名、片仮名、漢字の3つを用いて表記されるのですね。本当に驚きました。難しかったです。頑張りましたので、少しずつ日本語が分かるようになりました。日本手話も3ヵ月間勉強しました。日本手話はほぼ習得できたと思います。語学研修が終わった後、いろいろな場所に研修に行くわけですが、きちんとコミュニケーションを取り、しっかり学ぶためには手話の習得が重要になると分かっていました。ですから、手話の勉強も頑張りました。

次にスキー研修についてです。私たち6人は、異なる障がいがありますが、全員がスキーを楽しみました。印象に残っているのは、視覚に障がいのある人がどうやってスキーの滑り方を学ぶかということです。最初に、スキー板の先を「スキーブラ」という用具を使って固定します。これを使うと、ボーゲンの基本である「ハの字」を作るのが簡単です。私たちはスキーの先生のスキー板を見て、ハの字の角度をまねて、スピードを調整することができます。では、視覚に障がいのある研修生はどうやって「ハの字の角

度」が分かるのでしょうか。先生方は、左右のスキー板が作る空間をピザに見立て、「ピザ1ピース分、足を開いてください」とか「2ピース分開きましょう」と説明をしていました。こうやって足の開く感覚を少しずつ身に付けながら、ボーゲンを習得していきます。上手になると、スキーブラを外してもボーゲンができるようになります。私も最初はスキーブラを使いましたが、最後は自分でボーゲン

ができるようになりました。皆さんから「スキーが上手ですね」と言われましたが、実は3回ほど転びました。

個別研修では、「かがやきパソコンスクール」で、映像に字幕をつける方法を学びました。ネパールでは、手話動画を撮影するとそのままネット配信しています。しかし、ネパールのろう者にはその手話が分かっても、他の国々の人にはわかりません。これでは世界に向けて情報を





発信できません。そこで役に立つのが字幕です。例えば、英語で字幕をつけて映像をアップロードすると、視聴者が自分の好きな言語を選んで表示される字幕を変えられることも知りました。この方法をネパールのろう者に教えたいと思います。

日本ASL協会ではプレゼンテーション技法を学びました。この時に、生まれて初めて誕生日を祝ってもらいました。ネパールでは、誕生日を祝う習慣がなく、友だちや両親からお祝いしてもらったことはありませんでした。日本ASL協会の皆さんは、私を喜ばせようとこっそり準備を進めてくれたのですが、突然、パイが顔面に飛んできたのには驚きました。何が起こったのか理解できないまま、目の周りのクリームをぬぐうと、「ギャンさん、お誕生日おめでとう！」と皆さんが言ってくれました。本当にうれしかったです。そのあと、本物のケーキも出てきて、皆さんと一緒に食べました。とてもおいしかったです。忘れられない誕生日の思い出になりました。

2. 日本での研修

(1) 全国ろうあ青年研究討論会

全国ろうあ青年研究討論会は新潟県で開催されました。その一環として、分科会が設けられましたが、私は生活という分科会を選びました。それに参加して、日本とネパールでは、大会運営の方法が全く異なっていることに気付きました。ネパールも青年部と似たような組織があり、各種大会を開催していますが、ろう青年が主体性を持って大会を運営したり発言したりするより、ろう協の幹部が自分たちの考えや方法を青年たちに押し付けがちです。そこが日本では全く違っていました。ろう青年が感じている生活上の困難を話し合い、それを打破する方法までを彼ら自身で考えようとしていました。助言者として、全日本ろうあ連盟の理事などが同席されていましたが、その発言はアドバイス程度にとどめられていました。ネパールでも若者が積極的に活動へ参画できる方策を考えたいです。最初からすぐに上手くはいかないでしょうが、少しずつやっていけば良くなるのではないかと思います。私は日本で

このような貴重な経験をさせてもらったので、今後はネパールの若いろう者たちを盛り上げる役を担っていきたいです。

(2) 淡路ふくろうの郷

高齢ろう者の老人ホームである「淡路ふくろうの郷」で研修をしました。入居者の生い立ちをお伺いしましたが、今までの苦労も含めて、一つひとつ丁寧に話してくださいました。とてもいい経験になりました。初めは見学するだけでしたが、もっと深く知りたかったので、生活介護の体験実習もさせてもらいました。入浴介助では、利用者が女性の場合、いつも女性が介助するわけではありません。例えば、体重の重い方ですと、女性の介助者では対応が難しいので、男性の力を借りていました。介助の方法は入居者のニーズによって異なります。スタッフはそれに対応できるよう、様々な専門性を持った人がいて、入居者の生活を支えていました。

(3) たじま聴覚障害者センター

次に豊岡市にあるたじま聴覚障害者センターで、高齢者へのサポートとろう

重複障がい者へのサポートを学びました。高齢者の方々の中には、若いときから仕事に就き、定年退職された後は何もやることなく、家にひきこもる方もおられます。その辛さやストレスを一人で抱えたままにしていると病気になってしまうので、高齢ろう者が集まれる場所が大切になります。このセンターは高齢ろう者の活動の場所として活用され、軽作業や、交流会、情報交換・提供などを行っています。また、利用者の血圧を測るなど、健康管理もしていました。

3. 帰国後の目標

まずは、高齢ろう者のコミュニティを作りたいです。若い人たちと高齢者が交流するのは大切ですが、考え方や生活習慣が違うので、高齢者だけが集まり、十分にコミュニケーションが取れる場所を作ることも大切だと思います。

二つ目に、高齢者に楽しんでもらえる機会を作りたいです。軽作業を行ったり、絵を描いたり、色々なイベントの企画をしたりして、高齢ろう者の学習プログラムや娯楽を作りたいと思います。

次にネパールのろう協には、女性部、青年部、スポーツ部はありますが、高齢部がありません。私はろう協の組織内にぜひとも高齢部を設けたいです。それは、高齢ろう者自身による活動が展開できる仕組みにしたいです。次にネパール



では県レベルのろう協会はありますが、市町村レベルのろう協会がありません。ですので、市町村レベルでもろう協会を立ち上げたいです。ネパールでは公共の移動手段が整っていないので、なかなか遠い場所には行けません。ですから、自分たちの住む地域にろう協会があれば、情報交換、交流、活動、運動などがしやすくなります。そして、1年に1、2回程度、県や全国レベルで活動しているろう協会に通えたらいいと思います。

最後に、ろう者への差別・偏見を無くしたいと思います。この時に大切なのが、手話通訳者を増やすことです。政府

への交渉やろう者への理解を広める時に、私たちの声となり、耳となる手話通訳者と一緒に活動することが肝要です。

私が日本で学んだことをネパールの仲間に伝えれば終わりではありません。同じ目線に立ち、共に助け合いながら、活動していくことが大切です。

4. お礼のこたば

最後になりましたが、ダスキン愛の輪基金の皆さま、研修先の皆さま、日本障害者リハビリテーション協会の皆さまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

個別研修日程・研修場所

Individual Training Schedule

2016年

1月12日(火)、18日(月)～20日(水)
2月1日(月)～26日(金)、
3月1日(火)～14日(月)、
5月9日(月)、10日(火)

かがやきパソコンスクール

1月13日(水)、14日(木)

全日本ろうあ連盟

3月1日(火)～14日(月)

日本ASL協会

3月16日(水)～4月22日(金)

兵庫県聴覚障害者協会

5月9日(月)

明晴学園

5月10日(火)

東京手話通訳等派遣センター

5月11日(水)

足立区ろう者福祉推進合同委員会

5月12日(木)

筑波技術大学

5月13日(金)

早稲田大学 障がい学生支援室

地元の仲間たちと力を合わせて頑張っ！

毎朝、髪をボサボサにして「おはようございます！」と挨拶しているのが印象的でした。また初対面の人にジョークを言う明るい性格を持ったギャンさんでした。周囲の人たちを楽しませるのがうまい人です。特に50代から70代の方には人気者でした。

特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」の研修ではとても感激し、頑張っ！て研修を受け、入所者や職員らに可愛がられました。故郷ポカラでもろうあ者たちに人気のある方でしょう。

ネパールは日本と同様、地震国であり昨年4月に大震災が発生しました。昨年12月には全日本ろうあ連盟役員としてカトマンズへ出向き視察・今後の支援について話し合いをしま

した。大変な状況の中、ネパールろうあ協会役員たちは精力的にどうしていくか話し合いをし、行動していました。ギャンさんもネパールのろうあ者のために頑張っ！て活躍してくれると信じています。またネパールのみならず、1年に1回は開催されるアジア地域代表者会議やアジア地域青年部、青年キャンプ等があります。国際活動にも精力的に参加し、情報を得て自国に役に立つ活動、アジア地域のろうあ者ネットワークを広げていく一員として活動をしてくれることに期待しています。

公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会 事務局長
嶋本 恭規

ネパールのろうあ者のために頑張っ！

ギャンさん、日本での10ヵ月の研修大変お疲れさまでした。成果発表会のギャンさんの発表を拝見させていただき、さまざまな場所で内容の濃い研修が出来たことを知り、とても嬉しく思います。

1月に初めてギャンさんにお会いした時の第一印象は、「笑顔が素敵ですごく明るい方だな」という印象でした。ギャンさんの常に笑顔で前向きな姿を見て、私も勉強になりました。かがやきパソコンスクールでは、映像編集と字幕製作の勉強をしましたね。今は技術の進歩によりスマホやビデオで撮影した映像を簡単にインターネットにアップすることができますし、YouTubeの字幕機能、自動翻訳機能を使えば、1つの言語で字幕を作っておけば、世界中の人に内容を見て

もらうことができます。今後ギャンさんの作った映像が世界中の人に見てもらえるようになれば、ネパールでの活動の幅も広がってくると思います。そして、私もギャンさんの活躍を日本にしながら見るができますので、とても楽しみです。

ギャンさんの素敵な笑顔でネパールの仲間を癒しながら、自分の目標に向かって頑張っ！ていってください。本当に お疲れさまでした。また会える日を楽しみにしています。

かがやきパソコンスクール(かがやき株式会社)
取締役 野中 秀一



自立するろう者 ～ろう協会の発展と強化～

Phanita MAIPHONE

ハニタ・マイボン

ラオス(ヴィエンチャン)出身 23歳 聴覚障がい(ろう)

研修希望内容

- ① ろう協会の組織強化
- ② ろう者に対する差別の解消
- ③ 手話通訳者の養成
- ④ 手話の指導方法

私の名前は、ハニタ・マイボンです。ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業の第17期生で、ラオス出身です。日本で学びたいことは4つありました。1) ろう協会の組織強化、2) ろうの差別解消、3) 手話通訳者の養成、4) 手話の指導方法です。これらを学ぶために、日本で10ヵ月間研修をしました。

1. ラオスのろう者の現状

ラオスのろう者は様々な問題を抱えていますが、特に重要な4つについて説明します。1つ目は、ろう協会の活動に持続性がないことです。この背景には財源の問題があります。ろう協会は助成金を獲得したり、NGOなどからお金をもらったりして活動していますが、それらは1年や2年といった事業実施期間が設けられています。その期間が過ぎると財源がなくなってしまう、活動を休止せざるを得なくなります。2つ目に、手話通訳者が不足していることです。現在、ラオスには3人の手話通訳者しかいません。ラオスには18の県がありますが、たった3人しかいないのです。その理由は、手話通訳者の収入が不安定だからです。NGOからの支援もありますが、その期間は短く、金

額も安いので、通訳者は辞めてしまいます。3つ目はろう者の学歴が低いことです。ラオスのろう者は中学までしか進学できません。ラオス全土にろう学校は2つだけありますが、それらの学校には小学部と中学部しか設置されていません。一般の高校への進学は妨げられませんが、そこに手話通訳者は配置されません。手話で授業が受けられないので、結果的にろう者は高校に行くことができないのです。4つ目に手話ができるろう者が少ないことです。手話ができるろう者とは、ろう学校を卒業した人、またはろう協会で活動している人だけです。田舎や山間部に住むろう者は、手話に触れる機会がないまま成人することも珍しくありません。

2. 日本で学んだこと

初めにグループ研修の一環としてリーダーシップ研修を受けました。障がい者の中には、知識がない人、リーダーシップのとれる人、様々な人がいますが、知識のある人だけではなく、知識のない人も集めて、リーダーがその人たちに情報を教えることで、団結することができるかと学びました。仲間がいれば、政府との

交渉も円滑になります。ですが、現在のラオスでは、ろう者はバラバラです。団結して活動していけるように頑張っ！ていきたいと思います。

次に、個別研修で日本ASL協会に行きました。ここでは、ろう者に適したプレゼンテーション技法を学びました。例えば、講演者である私がどこに立てばよいのかを考えながら、プレゼンテーションの練習を行いました。また、ろう者と聴者の両方が参加している講演会でろう者から質問があった場合、その質問者の後ろにいるろう者には手話が見えません。そういった場合、話者である私が質問内容を手話で繰り返し、その人にも分かるようにしなければならぬということも学びました。また発表時間の厳守は一つの技術であることも学びました。

次に滋賀県ろうあ協会で研修を行い





ました。ろうあ協会には、手話指導部や広報部、青年部や高齢部、女性部といった様々な部門があります。それぞれの活動に参加し、研修をさせていただきました。部門ごとに独自の活動をしているだけでなく、各部のリーダーが集まり、理事会も行っていました。そこでは、これまでの活動報告や今後の活動計画について話し合われていました。この会議は1ヵ月に1回定期的に行われていきます。ラオスの場合は1年に1、2回しか行われていません。やはり、こうして定期的に会議を行うことで、活動が円滑に進むのだと思いました。滋賀県ろうあ協会では、会員から年会費を徴収することで、持続的な運営をしているそうです。ラオスろうあ協会でも会費を集めていますが、ごく僅かですので、会費収入のみで運営していくのは難しいです。そのため、NGOからお金をもらって運営していますが、その支援期限が切れれば、ろう協の活動も休止してしまいます。この状況を変えて持続的な活動をしていくためには、ラオスろう協会でも会費の値上げなどの工夫が必要ではないかと考えました。

滋賀では、ラオスでは見たことがない装置も見せてもらいました。ろう者福祉大会に参加したのですが、会場はとても広く、後ろの席ではステージの様子が良く見えません。そこで役に立つのが、ス

テージ中央に設置された大きなスクリーンです。ステージ上でろう者が手話で発言する時、話者がスクリーンに大きく映し出されます。聞こえる人たちはマイクから聞こえる声で十分かもしれませんが、私たちは手話が見えないと話している内容が分かりませんので、大きなスクリーンがあれば大変助かります。逆に話者が聞こえる人で手話を使わない場合は、スクリーンが2分割されて、1画面に話者が、もう1画面に手話通訳者が映し出されます。このような環境をラオスでも作りたいと思いました。

その次に和歌山県聴覚障害者協会では、勉強しました。そこは「紀州の手」を設立し、聴覚に障がいのある人のためのデ

サービスを提供しています。高齢ろう者の中には、一般の老人施設に通っている人もいますが、他の利用者や職員と会話ができず、孤立してしまう場合も多いです。そこで、手話でコミュニケーションができる「紀州の手」が設立されました。「紀州の手」では、ゲストを呼んで講演会を開いたり、勉強会を実施したり、手芸をしたりと様々な活動があるので、認知症の予防効果も期待できます。私にとってもすごく楽しい場所でした。ラオスにも家にひきこもっているろう者が沢山いますので、こういった場所があれば良いなと思います。ただ、高齢ろう者だけではなく、若いろう者も集まれる場所にしたいです。ラオスでは仕事に就けないろう者が多く、若くても家に閉じこもっているケースがたくさんあるので、そういった人たちも通える場にしたいです。

また、和歌山県聴覚障害者協会が現在力を入れているのは、高齢ろう者が安心して入居できる小規模老人ホーム設立に向けた寄付活動です。会員のみならず、企業や聞こえる人たちからも寄付を集め、土地を購入しました。しかし建物はまだ建っていませんので、寄付活動を続けています。この活動はろう協が自主的に始めたものではなく、和歌山県内のろう者からの要望に応え、ろう協が代表して活動を続けています。ラオスろう協会でも、寄付活動を行いたいと思いまし



た。というのも、ラオスろう協会は、身体障害者協会の傘下で活動をしています。視覚障がいや知的障がいの協会は独立しましたが、ろう協はそれができていません。私たちも自分たちの事務所を持ちたいので、こういった寄付活動を行うのはいいことだと思いました。

次に、国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科で勉強しました。ここでは、ナチュラルアプローチについて学びました。これは、CL(類別詞)やNMS(非手指動作)といった日本手話特有の文法をどのように教えるかという手法です。また、手話通訳者になるためにはどのように行動すべきかということも授業で教えていました。ラオスではそこまで指導していないので、今後は手話通訳者としての適切な振る舞いについても指導していきたいと思います。

3. 楽しかった思い出

ここで、日本での楽しかった思い出についてもお話ししたいです。お正月に京都と兵庫で着物を着る機会が2度ありました。大変だったのが歩き方です。着物の場合は内まで歩かなければならず、それがなかなか難しかったです。でも着物はきれいで大好きです。



個別研修日程・研修場所

Individual Training Schedule

2016年	
1月12日(火)、18日(月)～20日(水)	かがやきパソコンスクール
1月13日(水)～14日(木)	全日本ろうあ連盟
2月1日(月)～22日(月)	日本ASL協会
2月24日(水)	アジアの障害者活動を支援する会
2月25日(木)	Lifestyles of Deaf Women
2月29日(月)～3月13日(日)、3月21日(月)～4月8日(金)	滋賀県ろうあ協会
3月14日(月)～20日(日)	和歌山県聴覚障害者協会
4月11日(月)～5月13日(金)	国立障害者リハビリテーションセンター
5月9日(月)	明晴学園
5月10日(火)	東京手話通訳等派遣センター
5月12日(木)	筑波技術大学

4. 帰国後の目標

帰国後、ラオスろう協会で成し遂げたいことが5つあります。1つ目は、ラオスろう協会の組織力の強化です。2つ目は手話通訳者を養成し、通訳者数を増やすことです。3つ目は、ろう者にラオス語と手話を教えることです。そして、書記ラオス語・ラオス手話ができるろう者を増やしたいです。4つ目は、ろう者コミュニティを作ることです。ろう者が共に学び、共に活動できる場を創出したいです。最後に、政府や海外のNGOと交渉し、支援を得ることです。ろう

者が活動を継続していくためには、手話通訳者の存在は欠かせません。手話通訳者に安定した給与を支払うために、政府やNGOからの支援を充てたいと思います。そして、手話通訳者が末長ろう協と共に活動できる環境を作りたいです。

5. お礼の言葉

最後に、ダスキン愛の輪基金の皆さま、研修期間中にご指導いただいた皆さま、また戸山サンライズの皆さま、本当にありがとうございました。



帰国後の活躍を期待しています

ハニタさんの第一印象は、日本風の女性でした。滋賀で1ヵ月研修してもらいました。

ハニタさんの仕事が私と同じ立場でろうあ協会専従職員だったので、同じ考えがあって一緒に仕事をしやすかったです。この中で、組織体制の話に目覚めた瞬間の表情を今でも覚えています。

また、感心したことは、滋賀県手話言語条例の署名を始めた頃、滋賀県聴覚障害者福祉大会in東近江の時、ハニタさんが一番乗りで約50筆を集められたことです。

ハニタさんは「ちょんまげはなぜブレないの?」と不思議がって、テレビのちょんまげのところに釘づけになってみました。言われるまで、気づかなかったのです。

同年代の青年部の方と親友みたいになんか遊びまわったことが本人にとって思い出に残ったと思います。男性のことを話してもなんだか無関心でして、とてもかわいいハニタさんでした。でもきっと、ハニタさんはよい人との出会いに恵まれることを信じております。また、学んだ研修をラオスろうあ協会でも活かしてもらえたら何よりうれしいです。活動の面では、アジアの代表として活躍できることを期待しています。

一般社団法人 滋賀県ろうあ協会
理事 田邊 理恵子

私たちは応援している!

世界遺産である高野山を巡った後、地元協会との交流を深め、地域活動支援センター「紀州の手」と、開所する前の工事中である就労継続支援B型「手の郷」、2ヵ所ある当協会事務所、和歌山県聴覚障害者情報センター、手話サークル等に連れて回りました。

それぞれの業務内容を説明した時、優しい目がコロッと真剣なまなざしに変わり、これは何?あれは何?なぜ?など納得するまで質問攻めにあいました。

多忙な日々の合間に、活動について、自国についてなど世間話もし、私どももハニタ氏から学ぶことがたくさんありました。

「自国のろう者を取り巻く環境はよくない。それらの課題と問題をどう解決していくか、自国の強靱な組織と手話通訳制度を確立していかないと…。時々、自国の会長に日本の様子やこれからの活動についてどうあるべきか、チャットで話している。日本で勉強して自国も良くしたい!」と大きな目標を持っているハニタ氏に対して私は、「23歳だよね?」と脱帽しました。

和歌山の仲間はいつまでも「ハニタ・マイポン」を応援しています!

一般社団法人 和歌山県聴覚障害者協会
事務局 櫻井 貴浩



平等な社会の実現を目指して

Jabis Ngibutai MANAIKA

ジェイビス・ニュブタイ・マナイカ

ソロモン(ホニアラ)出身 24歳 視覚障がい(全盲)

研修希望内容

- ① 日本の福祉政策
- ② 視覚障がいに関する情報の習得
- ③ 日本の障がい者教育

1. はじめに

私はソロモン諸島からダスキンの研修に参加した最初の研修生です。家族は5人で、日本に来る前、ラジオ局で働いていました。

2. この研修に応募した理由

まず、私は新しいことを学ぶのが好きだからです。全然勉強したことがない日本の文化や日本語をぜひ日本で学びたいと考えました。

次に、ソロモンの政府には国際的な基準を元に作られた障がい者のための法律がありませんから、障がい者運動をしても大変なことがあります。その状況を変えたかったので、私は仕事を辞めてでもこの研修に参加したいと思いました。

3つ目は、私の国では日本の文化はとても有名なので、私も日本の文化をぜひ知りたかったです。漫画やお箸の使い方などは、私の国でもとても有名です。

最後に、日本の大きな会社であるダスキンのがこの研修を支援しているので、私は安心して勉強することができると思いました。

3. 日本で初めて経験したこと

(1) 日本語

来日前、私は日本語が全然分かりませんでした。日本へ来て3ヵ月ぐらい日本語を勉強しました。日本語は本当に難しかったです。先生は、私が話せるようになったらと心配していました。ですが、私は面白い話をたくさんしたかったので、ほとんど毎日、新しい文章を作りました。先生たちの教え方が本当にとてもよかったので、私は簡単な日本語が話せるようになりました。そして日本語の点字も勉強しました。これからは漢字も知りたいです。がんばります!

(2) 水泳の勉強

水泳の練習も初めてでした。プールでいっぱい水を飲みましたが、何度も何度も練習して、最後は25メートル泳げるようになりました。

(3) ホームステイ

お正月に、私は長崎でホームステイをしました。私のホストファミリーは、松本さんでした。私は長崎で本当に良い経験をしました。例えば、毎日違うおいしい料理を食べたり、色々な有名な場所に車で連れて行ってもらったりしました。まる

で、王様のような生活だと思いました。日本の文化も教えてもらいました。

(4) スキー

東京へ帰ってから、新潟へスキーに行きました。新潟はとても寒かったです。私は暑い国から来たので、特に大変でしたが、とても楽しかったです!スキーをした後、初めて大きな温泉にたくさんの人たちと入りました。ちょっと恥ずかしかったのですが、気持ちがよかったです。

(5) ランニング

時々、私たちは代々木公園でアキレスインターナショナルジャパンの人たちと走りました。毎回とても楽しくて、皆さんとも友達になったので、走ることが大好きになりました。もちろん勉強は重要ですが、それだけじゃなくて、運動も大事だと思います。



卓球も大阪で初めて体験しました。これもとても楽しかったです。

4. 個別研修

個別研修で、私は2つ大事なことを学びました。それは、視覚障がい者の支援機器と障がい者福祉です。

まず、視覚障がい者のためのいろいろな支援機器があることを学びました。最初は、アットイーズでパソコンの使い方を勉強しました。西村先生の教え方はとても素晴らしかったので、今ではパソコンの使い方がわかるようになりました。MSワード、パワーポイントとエクセルを勉強し、今では大体使いこなせています。

ATDOでは、DAISYを勉強しました。DAISYの本を作るソフトウェアは無料だということを知り、DAISY図書を増やすための大切な仕組みだと思いました。DAISY図書があれば、目が見えなくても録音した声を耳で聞けるので、本を読むことができます。私も自分でDAISY図書を作りたいと思いました。ATDOのスタッフが、たくさん知識や技術を教えてくれたので、私は自分の本を作ることができました。

日本ライトハウスでは、支援機器だけでなく、点字図書館システムも勉強したので、今では点字図書館のことがよく分かるようになりました。例えば、墨字の本を点訳して、その点字データをインターネットでオンラインライブラリーにアップロードすると、誰でもオンライン点字図書館で点字の本をダウンロードすることができます。

もうひとつは、障がい者福祉についてです。障がい者福祉のことは、ウイズで勉強しました。ウイズの斯波さんからたくさん習いました。

たとえば、見える人と視覚障がいのある人が一緒に仕事をする時、どんな道具を使えばいいと思いますか？視覚障がい者が仕事をする時に大事なツールが2つあります。1つ目は、音、つまり聞こえるものと、2つ目は凹凸、つまり触れてわかるものです。ウイズではたくさんの障が



い者が働いているので、さまざまな聞こえるものと触れるものがあり、それらを使って仕事をしていました。ウイズでは“難しい”という言葉を使いません。もし問題があったら、どうやってその問題を解決するかを全力で考えます。

ウイズで、勉強したもう一つのことは平等な社会という考え方です。これもとても重要です。日本はとても便利な国です。でも、点字ブロックがない国や、エレベーターがない国もたくさんありますね。違いはなんでしょうか？日本には良い考え方を持っている人がたくさん住んでいて、リーダーになった人は、障がい者活動を支援するからです。

これが平等な社会という考え方です。

5. 帰国後にやりたいこと

(1) ダスキン研修で習ったことをソロモン諸島で教えます。

障がいのある人たち、障がい者の同僚と障がい者のサポーターに教えてあげたいです。

(2) 障がい者に関するラジオプログラムを作りたいです。

ソロモン諸島ではたくさんの方がラジオを聞いています。このプログラムができれば、ソロモンのみなさんが障がい者について勉強するチャンスになります。

(3) ソロモンの政府に障がい者のことを相談します。

これから活動を積み重ねていけば、私は政府の大きな会議にも参加することができると思っています。その時が来たら、日本で勉強したことやソロモンでの経験を紹介します。

(4) 日本語の勉強

国へ帰っても日本語の勉強を続けたいです。国へ帰っても私は日本に住んでいる友達にメールでよく連絡をします。日本人がソロモンに来たら、通訳してあげたいです。

(5) 学校を作ります。

私の大きな夢は、視覚障がい者の学校を作ることです。私は先生になりたいので、資金を集められたらぜひ学校を作りたいです。ソロモン諸島には、視覚障がい者のための学校がまだありません。

6. 最後に

この研修はとても素晴らしかったです。約10ヵ月間、大事なことをたくさん勉強して、私の気持ちと考え方は本当に変わりました。日本に来る前の私は、自分のことだけしか見ていませんでした。でも、今は皆さんのために何をするべきかを考えるようになりました。

この研修では、日本の文化だけでなく、他の研修生の国の文化も少し学ぶことができました。このことも、とてもいい機会でした。

やるべきたくさんの方がソロモンで私を待っています。大変なこともあると思いますが、ダスキンの研修で様々なことをよく勉強したので、私は障がい者のリーダーになります！

これで私の最終レポートを終わります。ダスキン愛の輪基金の皆さん、研修先の皆さん、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん・・・私を支えてくれた全ての人に心からお礼を言いたいです。本当にありがとうございました！



個別研修日程・研修場所

2016年	
1月12日(火)、14日(木)～20日(水)、2月8日(月)～15日(月)、5月9日(月)、10日(火)	アットイーズ
1月13日(水)	ラビット
2月1日(月)～5日(金)、16日(火)～29日(月)、5月11日(水)～13日(金)	支援技術開発機構
3月1日(火)～26日(土)	日本ライトハウス
3月29日(火)～4月23日(土)	六星 障害者授産所ウイズ

Individual Training Schedule

研修生へのメッセージ

持ち前の明るさと行動力で活躍を確信！

「外見は同じでも中身は新しいジェイビスです！」と2ヵ月ぶりに再会した時にジェイビスさんが話したことが今でも忘れられません。様々な研修を通じ経験したことで、とても自信に満ち溢れてましたね。

研修中、事務所で研修が終わった後も自室で研修の復習をして少しずつ理解を深めていきましたね。成果発表会では耳で聞く図書がどのようなものか理解できるようになったと発表したのを聞いて嬉しかったです。

ジェイビスさんのランチと言えば、「麺」ですね。麺類が好きで昼ご飯はほとんど麺類ばかりでしたね。しかし、2ヵ月ぶりに会った時は麺類以外も昼食で食べて健康管理にも気を配っている姿には驚きました。また、事務所近くの公園で

梅の花の匂いを嗅いだり竹に触ったりしたのも楽しかったですね。

趣味のギター演奏を生で聞かせてもらった時はきれいな歌声と高い演奏の技術力にスタッフ一同驚きました。

帰国後は平等な社会を目指し様々なことにチャレンジしていきたいと聞いています。持ち前の明るさと行動力で様々な分野で活躍すると確信しています。日本で学んだこと・経験したことも活用してもらえればと思います。頑張ってください！応援しています！

特定非営利活動法人 支援技術開発機構(ATDO)
丸市 剛

研修生へのメッセージ

ジェイビス君！ソロモンの大統領になれ！

南の島々の国ソロモン諸島から来たジェイビス君。ダスキン研修に参加できたことの幸運は普段からの人々との交流があったからです。

日本語研修から個別研修といういろいろなところで、すばらしい気付きが沢山ありましたね。君の持つ気配りと心遣いは社会で活躍する上でとても大切な優しさです。

研修生6人で語り合っている時、聴覚障がいの二人が一緒に笑わないことに気付き、すぐに君はなぜ？どうするべきか？を考え、すぐにiPhoneで話の内容をメールで送信。一緒に談笑することができたのです。すばらしい感性です。

また、個別研修で浜松のウイズへ。数回の歩行訓練の結果、自力で白杖歩行で電車を通ったウイズでは、工夫して道

具を作り、仕事ができるようにすることを学びました。

五月の連休中、戸山サンライズで書類の封入・宛名シール貼りの作業が与えられました。その時もすぐに菓子箱とハサミで「シール貼り道具」を作ってしまう。なんとすばらしい実行力！これこそがウイズ研修の大成果です。

この優しさと実行力があれば、国に戻って仲間を作り、目標を設定すればなんでもできるでしょう。

大統領にもなればソロモンの福祉はすばらしく発展します。その時はぜひ呼んでくださいね。

NPO法人 六星・障害者授産所ウイズ
代表 斯波 千秋

Message to Trainee



日の出の国からの 大事な贈り物

Ariunaa BATSANDAG

アリユナ・バッサンダグ

モンゴル(ウランバートル)出身 29歳 視覚障がい(弱視)

研修希望内容

- ① 視覚障がい者の雇用機会の創出及び可能性
- ② 視覚障がい者が高等教育へアクセスする為の支援機器や訓練方法
- ③ 視覚障がい者への教育法
- ④ 視覚障がい者の作業所及び収入創出

「あなたは、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業の17期生に選ばれました。」というメールをもらって喜んだあの日を今もよく覚えています。ダスキン研修に参加したかった理由の一つは、日本の視覚障がい者の仕事について知りたかったからです。このことについて研修を通じて実に大切な知識や情報を得ました。

日本での10ヵ月間の研修で、大切な発見をしました。役に立つことをたくさん学びました。面白い体験もたくさんできて、素晴らしい思い出をいっぱい作りました。

日本語の勉強

日本に来てからまず3ヵ月間、6つの異なる国から来た私たち研修生は、日本語と日本語の点字を教えてもらいました。そしてすぐに私たちは毎日の面白い体験などを先生たちと楽しく喋るようになりました。先生方の教え方が大変素晴らしかったおかげだと感動しました。

街のアクセシビリティ

日本の、特に大きな街にある、アクセシビリティが素晴らしいです。一人です

かける時、点字ブロックと音のする信号が役に立ちました。駅員さんに案内してもらって、遠いところでも一人で行くことができました。

私の国では早く走って道路を渡ることが多いです。日本では、走らなくても安全にゆっくり道路を渡ることができました。

代々木公園での練習会

東京で好きな場所は代々木公園です。日曜日にアキレスインターナショナルジャパンの友達を迎えにきてくれて、公園で練習会に参加したり、一緒に遊んだりしたのは、忘れられない楽しい時間でした。

ホームステイ

私はラッキーなことに、大阪と京都で二つの家族のところに、ホームステイをしました。そこで日本のライフスタイルと文化をもっと知ることができました。

大阪では、林田さんのところでホームステイをしました。子どもたちが2人いたので、子どもたちと一緒に習字を書いたり、みんなで風揚げをしたりしました。

京都では、ホームステイ先の竹下一家

とお正月をお祝いしました。

今、京都と聞くと、素敵なイメージと素晴らしい思い出が蘇ってきます。私の日本のママは、全盲の方で、とても優しい人です。織物や料理、歌が上手です。私の国にいる視覚障がい者に織物を教えたいと思っていたので、また2月に京都に戻ってきた時、八千代ママから機織りの研修を受けました。

京都のきれいな自然の中で散歩する時も、京都のきれいな植物園、有名な古いお寺などいろんな面白いところに行くときも、私の日本のお父さんは、私と八千代ママに全部説明してくれて、触れるものがあったら、ちゃんと触らせてくれました。それから私の写真に説明を書いてくれました。



個別研修

1月から5月まで、個別研修を受けました。1番最初にアットイーズで、パソコン研修を受けました。

1月に、2日間スキー研修を受けました。初めは本当に百回ぐらい転ぶと思っていました。でも5回しか転びませんでしたので、嬉しかったです。

2月から、ATDOでDAISY研修を受けました。DAISYの種類と作り方をよく教えてもらって、DAISYの本を作りました。

その後、京都の家にまたホームステイをしながら、八千代ママから機織りの研修を受けました。八千代ママは、私にいろんな種類の織り方を一生懸命教えてくれました。

見えなくても自分で縦糸を張って織ることができるフラミンゴという織り機はすごいです。この織り機を作った方を紹介してもらって、1台買いました。

3月からの最初の3週間は、日本ライトハウスの情報文化センターで、最後の1週間は、日本ライトハウスのリハビリテーションセンターで研修を受けました。

情報文化センターで、たくさんのボランティアが、点字の本を作ったり、録音をしたり、対面朗読をしたりしているのを見て、感動しました。私の国では、点字本の制作も録音も、職員だけです。日本には、視覚障がい者をガイドするボランティアもいるので、この人たちに何回もガイドしてもらいました。

情報文化センターでの研修では、日本の視覚障がい者の図書館のシステムやインクルーシブ教育などについての知識や情報をたくさんもらいました。

盲の小学生が学んでいるインクルーシブ教室を見学しました。その学生は、点字の教科書と点字タイプライターを使って、教育をうけていました。

大学の障がい者サポートセンターも見学しました。いくつかの大学は、このようなサポートシステムがあると知りました。

情報文化センターでの研修の時、不動先生から、日常生活訓練を受けました。

国立モンゴル盲人協会のリハビリテーションセンターは、将来、日常生活訓練を実施する計画があります。今は歩行訓練をしています。訓練士が足りません。ですから、日常生活訓練について、良いアイデアと情報をもらいたいと思って、この訓練を受けました。

不動先生は、既存の訓練プログラムではなくて、現在の私のニーズに合わせた訓練をしてくれました。ですので、このような訓練は、すぐ役に立つと思いました。

4月にヒューマンケア協会で、自立生活について研修を受けました。そこで、日本の自立生活運動の素晴らしいリーダーである中西さんに会って、話を聞いたときはとても感動しました。

研修を受ける前は、自立生活運動について正しい理解がありませんでした。



ヒューマンケア協会の自立生活体験室に泊まって、自立生活プログラムを受けながら、自立生活運動と関係がある大切なことをたくさん学びました。自立生活プログラムの中で、介助者に手伝ってもらったのは、新しい体験でした。

そのあと、浜松に行ってウイズで研修を受けました。ウイズでは、視覚障がい者は、晴眼者のスタッフと一緒に楽しく仕事をしていました。どうやったら、どんな工夫をしたら、見えない人は確実な仕事ができるかを、チームで考えて、身近にある道具を使っていました。例えば、テーブルの幅を使って、紐の長さを決めて切ったりしていました。私は、見えない方がミシンを使って、仕事をしているのを見て驚きました。なぜなら、このような方法を試みようと思ったことがなかったからです。

ウイズ代表の斯波さんは、私に対して面白く、役に立つことをたくさん話してくれました。私に、白杖の作り方を教えてくれたので、いまはそこで自分が作った杖を使っています。

日本には有名なお祭りが沢山あると聞いていました。ゴールデン・ウィークのとき、浜松まつりを楽しむチャンスがあって、素敵な体験をしました。

帰国後の計画

私はもうすぐ国へ帰ります。帰ってから、仲間と一緒に以下の3つの目的のために活動を行います。

- ・介助サービスを作る
- ・障がい者の仕事を増やす
- ・アクセシブルな環境づくりを促進する

お礼

日本で過ごした毎日は、私にとって大事な贈り物でした。

こんなに素晴らしい機会を与えてくださったことに、心からお礼申し上げます。この10ヵ月の研修でたくさんの方々いたいへんお世話になりました。

どうもありがとうございます。
ありがとう、日本！

2016年

1月12日(火)～20日(水)、2月5日(金)～15日(月)

アットイーズ

1月13日(水)

ラビット

2月1日(月)～4日(木)、16日(火)～22日(月)

支援技術開発機構

2月23日(火)～4月2日(土)

日本ライトハウス

4月5日(火)～22日(金)

ヒューマンケア協会

4月28日(木)～5月13日(金)

六星 障害者授産所ウイズ

研修生へのメッセージ

Message to Trainee

わたしたちは「な・か・ま」

アリさんとは女性だけで話をする機会が何回もありました。初めは研修のために私の自宅に来てもらった時で、アリさんの内面にもふれる深い話を聞かせてもらいました。二回目は四人で女性だけのピアカウンセリング。ここでもお互いの話をじっくり聞きあうことができました。

三回目は私の家で女性限定の夕食会。ちょうど同じ時期に、13期卒業生のリズワンさんの引率でパキスタンのマイルストン自立生活センターから来ていたアナムさんと介助者のシムザさん、ヒューマンケア協会でアリさんの研修受け入れを担当していた伊藤さんとお嬢さん、アリさんと私と介助者の7人で、恋愛や結婚など『女子(?)トーク』に盛り上がりました。

料理上手の伊藤さんが日本っぽいのをを持ってきた玉こんにゃくの煮物で「食感が面白い。初めての体験」と料理

トークに始まり、それぞれの国の習慣や女性障がい者について話が移っていきました。アリさんがモンゴルでは女性のしかも視覚障がい者はおそろ危険で一人歩きができないと話す、パキスタンでは女性は家長の許可がないと自由に外出ができないし、結婚相手も選べない…など次々と話が広がり、お互いの国の違いに一緒に驚いたり、怒ったり、共感したりできた有意義な夜でした。

アリさんは素直で、好奇心旺盛で、笑顔が素敵な女性です。「自分の国でも自由に外を歩けるようガイドヘルパー制度を作りたい」その強い思い、みんなで応援します。

自立生活センター・日野
事務局長 秋山 浩子

研修生へのメッセージ

Message to Trainee

アリさんと共に

日本ライトハウスの竹下さんからダスキンの研修生の歩行訓練を依頼され、今回は日常生活についても希望があると聞いて、10回程で何ができるのか考えましたが、答えはでてきません。それなら本人に聞くしかないと思い、訓練に入る前にアリさんと会って話を聞く機会をつくってもらいました。アリさんはとても意欲的に私を受け入れてくださり、いろいろな失敗談も話に出たので、それを参考にやっていくことを考えました。失敗したということは体験したことで、きっと印象に残っているから、それらのことからできることを増やせていけたら一つのきっかけになるのではと思いました。

私はモンゴルのことも知らないし、英語も話せないので、

アリさんの理解力に全面的に頼りながら、なるべく具体的に物を触ってもらったり、伝えきれないところは点字でメモを作り、他の人にも聞いてもらえるようにしました。それでも中途半端で終わってしまい申し訳なく思っていたのですが、報告会に出席してアリさんの話を聞き、少しでも役に立つことがあったみたいで嬉しく思いました。

モンゴルに帰られて、より多くの人と交わり、アリさんの学んだことをより多くの人に分けて、一緒に発展させてくださることを願っています。

不動 澄江



母国の障がい者が暮らしやすい環境を作る活動をします

Sereypong CHHIM

セレイポン・チム

カンボジア(プノンペン)出身 30歳 肢体不自由(手動車いす)

研修希望内容

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ① 日本の障がい者の福祉政策及びサービス | ④ 障がいと開発 |
| ② 日本のインクルーシブ教育 | ⑤ 障がい者が自立するための社会的企業について |
| ③ CBRガイドライン | ⑥ 権利擁護活動 |

1. 自己紹介

私は、セレイポンと申します。カンボジアのプノンペンから来ました。ダスキンの第17期生です。1985年にコンポンチナン県で生まれました。3歳のとき、ポリオになりました。4人兄弟で、姉と兄、そして弟がいます。兄弟の中で私だけ障がいがあります。15年前に、母も病気で障がい者になりました。私が9歳のとき、父は病気で亡くなりましたので、母が一人で私たちを育ててくれました。今の私の仕事は公務員で、首都プノンペンで働いています。

2. 初めての日本の生活

去年9月に来日してから3ヵ月間、私は日本語を勉強しました。そして、毎週水曜日に水泳を習ったり、色々なスポーツの活動に参加したりしました。去年10月には、名古屋の車いすマラソンにも参加しました。時々、友だちと代々木公園に走りにいきました。今年の1月に、新潟県でスキー研修を受けました。日本にいたとき、色々なスポーツを経験したので、私の体調は良くなりました。

私は一週間、愛媛県の松山市でホーム

ステイをしました。ホストファミリーは井谷さんです。ホームステイのとき、餅つきをしたり、美味しいお正月の料理を食べたり、ゲームをしたりしました。ホームステイ最後の日に、私たちは松山城へ行きました。松山城までエレベーターがなかったので、ヘルパーさんに私の車いすを押してもらいました。ホームステイで、日本の文化と生活について学びました。

3. 個別研修

私は日本に来る前に、障がい児教育と障がい者の仕事について興味がありました。ですから、研修の目的は3つありました。1つめは障がい者の社会的企業、2つ



めは障がい児のインクルーシブ教育、最後はプロジェクト・マネジメントです。10ヵ月間、色々な所で研修を受けました。その中で、自立生活センターSTEPえどがわ、DPI日本会議、NPOマネジメントフォーラム、AJU自立の家、難民を助ける会(AAR-Japan)、そして、こころんについて説明します。

自立生活センターSTEPえどがわ

STEPえどがわには、4つ大切な活動があります。アドボカシー、ヘルパー派遣、ピア・カウンセリング、自立生活プログラムです。私は、STEPえどがわのスタッフと自立生活体験室を見学に行きました。そこで私は、色々な障がい者のための設備を紹介してもらいました。たとえば、電動ベッド、浴室、トイレ、電動リフター、洗面台です。もう1つ面白かった研修は、自分の国の障がい者について、STEPえどがわのスタッフと、討議・交流をしたことです。

DPI日本会議

DPIは、1986年に設立されました。そして、アドボカシー、障がい者権利擁護、点字印刷、国際協力など、大切な活動をしています。ほかにも、日本の障がい者運動の歴史、障がい者雇用制度、難病に



ついても教えてもらいました。

DPIの国際活動はたくさんあります。例えば、南アフリカでのJICAプロジェクトや障がい者権利条約に関する会議への参加です。研修中に、障がい者権利条約の平行レポートについて学んだり、開発アジェンダに障がいの視点を取り入れることがどうして大切かを教えてもらったりしました。私は、障がいとインクルーシブ開発に興味があるので、この研修は将来の活動に役に立つと思います。

NPOマネジメントフォーラム：ドイツ、イギリスとオーストリアから参加者39人が来日して、日本人は40人が参加しました。参加者は全員、高齢者や障がい者、若者に関する団体のスタッフです。フォーラムのとき、どうやって企業と非営利団体が一緒に協力するかを話し合いました。現在、非営利団体の役割は大きくなっていますから、企業と一緒に、お互いの強みを活かして、社会問題を解決することが期待されています。色々な国の事例を聞いて、とても勉強になりました。私は国へ帰ってから、企業と非営利団体が一緒に協力しながら活動することを考えます。

AJU自立の家

私は、中部運輸局と交通バリアフリー交渉の会議に参加しました。公務員と色々なステークホルダーと一緒に交通バリアフリーについて相談することは大切だと思います。ほかに中部国際空港セントレアにバリアフリーチェックに行きました。空港は、トイレや授乳室、エレベーター、自動販売機、駐車場がバリア

フリーでした。ですから、障がい者や高齢者、ベビーカーの人にとって使いやすいです。もう一つ、私は名古屋市施策推進会議にも参加しました。そこでは、障がい者福祉関係予算と名古屋市障がい者基本計画、障がい者差別解消法の取り組みについて話し合いました。色々な人が集まって、問題を解決するために相談するのはとても良いと思います。もし、カンボジアで同じ活動をやったら、カンボジアはもっとバリアフリーになります。

難民を助ける会(AAR-Japan)

AAR-Japanは、1979年に日本に来たインドシナ難民を助ける会の活動から始まりました。現在AAR-Japanは、15カ国で5つの活動をしています。例えば、緊急支援や障がい者支援、地雷対策、感染症対策、提言・発信です。この研修で、AAR-Japanの歴史と活動、プロジェクト・マネジメント、AAR-Japanの障がい者支援、カンボジアとハイチとタジキスタンのインクルーシブ教育について勉強しました。AAR-Japanは、カンボジアで

インクルーシブ教育プロジェクトをやっているので、カンボジアの団体と一緒に協力して、どんどん活動を良くしていただきたいと思います。

社会福祉法人こころん

「こころん」は、2004年3月に精神障がい者地域生活支援センターとしてスタートしました。現在「こころん」は、色々な活動をやっています。例えば、1. 就労支援：直売・カフェこころや、なごみの家、こころん工房、2. 生活支援：グループホーム・ケアホーム、ホームヘルパーサービス、生活支援センターこころんです。「こころん」は地域の農業や里山の資源を使っている、これはとても良いことだと思います。カンボジアは、開発途上国なので、障がい者のために、こころんのように地域の資源をよく使ったほうが良いです。

4. 帰国後の計画

国へ帰ったら、次の3つのことをしたいです。

- 内閣府で仕事を続けます。そして国立

障がい者委員会のメンバーになりたいです。

- 田舎で、障がい児のためのインクルーシブ教育をやりたいです。
- 障がい者のための企業を作りたいです。

10ヵ月間日本にいるとき、日本語と日本の障がい者の活動とリーダーシップについてよく勉強できました。私は国へ

帰ってから、日本で学んだことを生かしてカンボジアの障がい者にとって暮らしやすい環境を作る活動をやりたいです!!!

ダスキン愛の輪基金の皆さん、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん、お世話になった全ての人に心からお礼を言いたいです。ありがとうございました。



Message to Trainee

カンボジアの障がい者のために

3月1日～27日まで約1ヵ月の間AJUでの研修はどうだったでしょうか？差別解消法イベントのため、当初の予定を延長させての滞在となりましたね。AJUはたくさんの部署があるので、周るところが多くあまりお休みがなかったかなと思います。その代わり、たくさんの障がい者に会い、いろいろな経験をしてもらえたと思います。一度会った人の名前は忘れないのに、カンボジアの自宅をGoogle Earthで検索するときに迷ってしまうおちゃめな方でした。ポンさんの研修テーマの一つであるインクルーシブ教育についてカンボジアの現状を伝えてくれたり、カンボジア料理を作ってくれたり、私たちもポンさんを通じてカンボジアについて知ること

が出来ました。成果発表会でも話してくれた通り、行政との関わりについては障がい者が参加して意見を言うことが大切です。カンボジアに帰って公務員として働く際には、障がい者の立場から意見を言って、カンボジアがより障がい者の住みやすい国になるよう行政を変えていってほしいです。最後に、真面目なようでおちゃめなポンさん、体に気を付けて障がい者のリーダーとしてカンボジアで頑張ってください。

社会福祉法人 AJU自立の家
内海 千恵子

Message to Trainee

ポンさんは大事な大事な仲間です！

ポンさんとの思い出は、なんといってもお花見！ですね。

ポンさんが私たち『全国自立生活センター協議会』に来てくださったのは、桜の咲き誇る4月の初めのことでした。

何はともあれ、日本の風情ある景色を観てもらいたくて、私のお気に入りの桜並木を案内し、私も一緒に楽しみました。

もちろん、事務所では、日本の自立生活センターの話やピア・カウンセリングのお話もしましたが、お花見の前に、私が一人暮らしをしている自宅で、介助者に指示をしながら料理を作るところも見てもらいました。

重度な障がいをもっている、電車に乗って行きたいところへ行って楽しみ、自分で料理を作り食べたいものを食べる。

たとえ、道に迷ったり、おいしくない料理ができあがったとしても、すべて自分で決めたこと。

そんな自立生活を楽しんでいるところが伝わったらいいなあ、と思いながら一緒に時間を過ごしました。

どこにいても何をしても、私たちはつながっていますね。

ポンさんは大事な大事な仲間です。

お会いできて本当に良かったです。ありがとう。

それではポンさん、また会う日まで！

全国自立生活センター協議会
事務局 山本 奈緒子



母国の障がい者運動のリーダーになります

Adeel AHMED

アディール・アハマッド

パキスタン(カラチ)出身 28歳 肢体不自由(簡易電動車いす)

研修希望内容

- | | |
|-------------|-----------------|
| ① 自立生活 | ④ 障がい当事者による政策提言 |
| ② モビリティ | ⑤ アクセシブルなウェブページ |
| ③ 若い障がい者の育成 | |

私は今、最後のレポートを書いています。ちょっと寂しい気分です。

毎週提出するレポートに、私は日本で経験したことを書いていました。毎日レポートを書くのは、とても良いコンセプトだと思います。レポートを書くことで、日本語の練習になりましたし、いろいろな経験をシェアすることができました。

日本での経験

日本では本当に色々な経験をしました。パキスタンにいたとき、日本がバリアフリーだと全然知りませんでした。私は日本で車いすを使ってどこでも行くことが出来ます。一人で生活ができ、とても嬉しいです。

日本に来て最初の3ヵ月間、日本語を勉強しました。そして、やさしい言葉を使って日本語を話せるようになりました。日本語の先生、本当にありがとうございました。

水泳の研修はとても楽しかったです。私は泳ぎ方が全然分かりませんでした。先生が教えてくれました。研修の最終日には、50メートル泳げるようになりました。

スキーも初めての経験でした。最初は

とても怖かったです。私にとって一番難しいことは、足がとても冷たくなることでした。でも、先生たちも私も一生懸命がんばりました。とても良い経験でした。スキーの後、お風呂にも行きました。日本のお風呂に入って、身体が元気になりました。

メインストリーム協会で研修している時、いろいろな有名な場所に連れて行ってもらいました。例えば、京都、広島、神戸に行きました。そして、動物園に行っ



て、バリアフリーチェックもしました。

ばあとなぁで研修している時に、スタッフと一緒に名古屋へ行きました。そこで、障がい者差別解消法の施行を祝うパレードに参加しました。

個別研修

グループ研修が終わり、個別研修では色々な自立生活センターへ行きました。メインストリーム協会、ヒューマンケア協会、自立生活センターSTEPえどがわ、自立生活夢宙センター、AJU自立の家、ばあとなぁなどを訪問しました。

障がい者運動のリーダー

日本の障がい者運動のリーダー、例えば、廉田さん、中西さん、佐藤さん、平下さんに会いました。他にもたくさんのリーダーに会う機会がありました。皆さんにいろいろなことを教えてもらって、私の考え方は変わりました。全てのリーダーは、「みんなにやさしい社会を目指してがんばっている」と教えてくれました。この考え方に私はとても惹かれました。他にも、バリアフリーの社会をどうやって作るのか、自立生活運動の歴史や理念、日本の自立生活センターのシステム



について教えてもらいました。障がいのある人が自ら考え、行動して、社会を変えていくことが大切です。そのために、障がいのある人が一丸になれば、すごい力が生まれることも教わりました。

重度障がい者の生活

自立生活センターで学びたかったのは、「日本で重度障がい者がどんな生活をしているか」でした。西宮にあるメインストリーム協会で2ヵ月間研修をする中で、たくさんの重度障がい者に会いました。皆さんは私に様々な研修をしてくださいました。そして、皆さんと友だちになりました。

重度障がいになる理由は様々です。例えば、筋ジストロフィー、脳性まひ、事故などがあります。

筋ジストロフィーの子どもは、生まれた時は障がいのない子どもと同じです。でも、だんだん筋肉が弱くなります。子どもの時は歩けますが、すぐ疲れます。そして、だんだん歩けなくなります。その時は2時間から5時間ぐらい介助者を使います。その後、もっと筋肉が弱くなったら、車いすを使います。その時は、10時間から15時間ぐらいの介助が必要です。内臓が弱くなったら、色々な医療機器を使います。例えば、呼吸器や痰の吸引器を使って生活をします。

重度障がい者の中には、いつも酸素マスクを使っている方もいます。最初は、話

している言葉がよく聞き取れませんでした。が、だんだん分かるようになりました。

事故によって障がいを負うこともあります。頸椎を損傷すると、首から下は動かなくなります。

大きな声を出すことが難しい重度障がい者もいますが、色々な大学で障がい者運動について話している姿を見ました。

様々なスポーツを楽しむ重度の障がいのある人もたくさんいました。私がメインストリーム協会で研修をしている時、重度障がい者と一緒にボウリングを楽しみました。私にとって、ボウリングは初めての経験でしたし、皆さんと一緒にだったのもっと楽しく感じました。

私が本当にびっくりしたことは、日本の重度障がい者は一人暮らしをしていることです。24時間介助を使うことで、一人暮らしをすることが出来ます。

そして、日本の重度障がい者は大きな目標と自信を持って生活していました。5年から10年先の計画を考えています。

このように、重度障がい者の生活をつぶさに観察することができたのは、重度障がいのある方のお宅でホームステイをすることができたからです。これは大変効果的な学び方だったと思います。私は重い障がいのある人の家に泊めてもらって、日常生活を見せてもらいました。それまで、どうやってトイレに行っているのか、寝る時はどうしているのか疑問で

したが、実際にその様子を見て、学ぶことができました。

メインストリーム協会の研修では、私も初めて介助者を使いました。お風呂に入ったり、料理を作ったりする時、自分だけでもできますが、すごく時間がかかります。介助者を使うことで、障がいのある人の生活がとても簡単になります。

将来の夢

1. 重度障がい者のために自立生活センターを作ります。

最初に、私は障がい者のために自立生活センターを作って、その中に自立生活サポートプログラムを作りたいです。このセンターの目的は重度障がい者が介助者を使って、自分で生活ができるようになることです。

2. 介助システムをパキスタンで作ります。

介助システムができたら、3つのいいことがあります。



①家族の中に障がい者が一人いて、家族だけで手伝っていたら大変です。介助者がいたら、家族は楽になります。

②介助者を使えば、障がい者は自分のしたいことが自分でできます。トイレや買い物、料理もできます。

③このシステムがあったら、仕事の機会を増やすことができます。仕事がしたい人はトレーニングを受けて、介助者になることができます。

では、どうやって重度障がい者とその家族が介助の費用を払うのでしょうか？私はその解決策を考えました。

3. 社会的企業を作ります。

私はフリーランスのITコンサルタントです。ですから、重い障がい者にITの技術を教えることができます。ITは、障がい特性に合わせた働き方を可能にする分野だと思います。私は重度障がい者の自立生活センターの運営をサポートするために、IT企業を作ります。私は6ヵ月ぐらい時間をかけて、ウェブデザイン、プログラミング、アニメーションなどを重度障がい者に教えます。それから色々な企業に売り込みをして、仕事をもらいます。障がいのある人は習った技術を活かして仕事をして、給料をもらいます。そして自立生活ができます。一方、企業は障



がいのある人の自立を支援することができ、企業の社会的貢献(CSR)を果たすことができます。これは両者にとって、Win-Winの関係です。

日本には障がい者のための社会的企業がたくさんありました。私が考えた社会的企業のモデルとなったのは、Do-will、しまむら(Shimamura Super Market)でした。

ありがとうございます

研修期間中、私に色々なことを教えてくれた先生や研修先の方にここからお礼を言いたいです。

ダスキン愛の輪基金のスタッフ、日本障害者リハビリテーション協会のスタッフ、そして、戸山サンライズのスタッフにも心から感謝をしたいと思います。

色々お世話になりました。ありがとうございました。

個別研修日程・研修場所

Individual Training Schedule

2016年	
1月12日(火)	東京都立光明特別支援学校
1月13日(水)	ラビット
1月14日(木)、15日(金)、20日(水)、2月23日(火)	CBR/CBID
1月19日(火)	研進
2月1日(月)	鉄道弘済会
2月1日(月)～5日(金)	さいとう工房
2月9日(火)～19日(金)	DPI日本会議
2月25日(木)	全国自立生活センター協議会
2月26日(金)、5月12日(木)	ヒューマンケア協会
2月29日(月)～4月23日(土)、4月28日(木)～5月6日(金)	メインストリーム協会
5月9日(月)、13日(金)	ウィーキャン世田谷
5月10日(火)	ミライロ
5月11日(水)	アジアの障害者活動を支援する会

Message to Trainee

研修生へのメッセージ

共感する仲間をつかって夢を実現してください

アディールさんと初めて出会ったのは、2年以上前カラチの障がい者団体DWAに訪問した時でしたね。マンゴーの木の脇でツーショットの写真を撮ったこと覚えていますか？

それはラホールから始まった「さくら・車いすプロジェクト」がイスラマバードやカラチに広がったことによる訪問でした。

当工房での研修は短期でしたが、気心が知れたハビブがいたので、よく日曜日に来てカレーを作って一緒に食べたり、車椅子の整備をしたり、ゴールドコンサートにも行きましたね。パキスタンと日本は関わりも深く友人の数も、共に生み出した素晴らしい現実も沢山あります。

その一つに第3期のダスキン研修生だったシャフィックの

志が、同志と共に障がい者自立センターをつくり、また車椅子をパキスタンで生み出し、支給制度にまで高め、車椅子普及の大きい道をつくり、その流れからアディールと出会うこともできました。

アディールさんは、得意なPCの技術でサポートセンターを設立し、障がい者の仕事を生み出すことが願いだと言っていました。是非実現して下さい。それは共感する仲間をつくり、一緒に進めることだと考えます。陰ながらその実現を社員皆で応援しております。

(有)さいとう工房
代表取締役 齋藤 省

Message to Trainee

研修生へのメッセージ

学んだ「志」・「一丸」を忘れずに！

アディールの印象は良くも悪くもマイペース。もう出発時間が近づいているのにチャイを作り出す。急に予定を変えようとする。本当に振り回されることが多かった。私達にチャイをふるまいたい、日本で様々なことを経験したいという気持ちが強かったからだろう。

私は日本の障がい者運動の講義、ホームステイ、その他遊びを通してアディールと関わる事が多かった。研修やホームステイでは一つでも多くを学ぼうと質問も多く、さらに重度障がい者の自立生活に興味を持ち、多くの障がい当事者に話しかけていた姿勢はとても熱心だった。また今までの研修生と違い、彼は入浴や移乗で介助が必要だった。初めてで、しかも日本人にやってもらうのだから抵抗が強いはずな

のにすんなり受けていたのが印象的だった。

帰国したら一人暮らしを始め、カラチで自立生活のモデルとなって、重度障がい者がたくさん地域で暮らせる社会づくりの運動のリーダーとなってほしい。だけど、時間や予定をちゃんと管理し、周りを困らせないようにね。持ち前のマイペースさで厳しい社会に流されず、仲間を集めて自立生活運動をやってください。メインストリーム協会で学んだ「志」・「一丸」を忘れずに。

NPO法人 メインストリーム協会
副代表 藤原 勝也

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13

TEL:06-6821-5270 FAX:06-6821-5271

<http://www.ainowa.jp/>